

木質ペレットを核に CO₂削減と 地域振興を実現

CO₂吸収効果の高い森林の荒廃を救う、新しい取り組みが始まっている。高知県梶原町で木質ペレット工場を稼働。矢崎総業は消費機器として、冷暖房機「バイオアロエース」を開発した。この取り組みを地域振興や森林保全を実現するモデルにしたいと、全国の自治体も注目する。

森林はCO₂排出量削減に大きな役割を果たす。日本では、排出量の約3・8%を森林が吸収するとされる。森林の荒廃が問題となっている。手入れされない森林では、CO₂吸収力ももとより、地盤の保水力も失われていく。こうした森林の現状を変えるためのビジネスモデルを模索したのが、矢崎総業だ。

注目したのは、木質ペレットである。「木質ペレットは、森林整備で切り捨てた未利用材な



矢崎資源
環境システム開発センター
顧問 仲二副センター長

矢崎総業

木質ペレット焚冷暖房機

「バイオアロエース」



矢崎総業
環境エネルギー機器本部
環境システム事業部
事業推進部
庄子 努部長

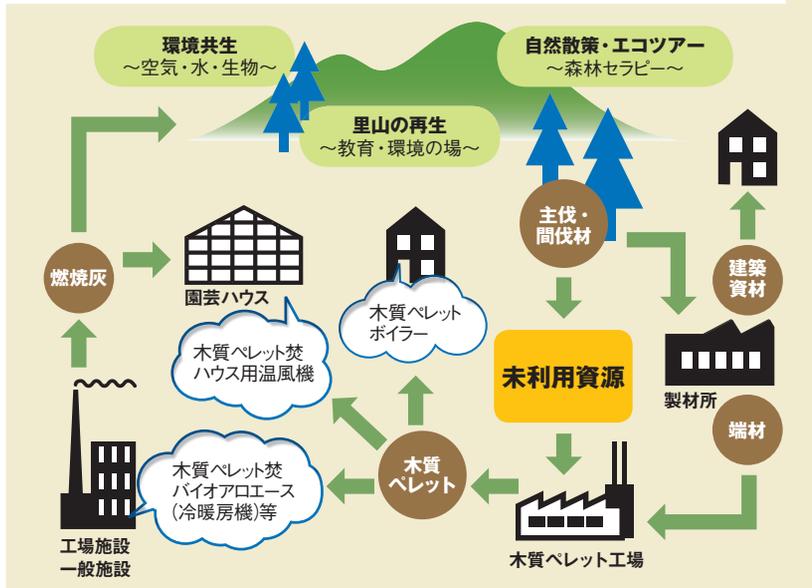
さらに、未利用材を活用するビジネスモデルを、「循環と共生のまちづくり」を標榜する高知県梶原町に提案した。「当社の自動車部品製造拠点の所在する地域の活性化をお手伝いしたいと考えたからです」と、矢崎総業環境エネルギー機器本部の庄子努部長は振り返る。高知県の支援を得て、梶

原町・森林組合と共同で木質ペレットの製造・流通工程を整備。主要施設にバイオアロエースを導入して、木質ペレットを核としたエネルギーの地域内循環を実現した。

「社会から必要とされる企業」の社是を体現

この夏には農業ハウス向けとして、木質ペレット焚温風機をリリースの予定だ。「地元のエネルギーを使った農産物は、環境時代の市場に高く評価されるのでは」と、庄子部長。家庭向けボイラーの開発予定もあり、木質ペレット活用のすそ野がさらに拡大しそうだ。多くの自治体が梶原町を訪れるなど、地域振興と環境保全を両立する取り組みに関心が高まっている。

矢崎総業が目指す木質バイオマス地域循環利用イメージ



問い合わせ先

矢崎総業株式会社
〒108-8333 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル17F
http://www.yazaki-group.com